

難病患者の就労支援について



～超短時間ワークの可能性～ ★超短時間ワーク事例は裏面参照

日時 10月13日(金) 13:30～16:10 (受付13時)

会場 岐阜大学医学部附属病院 (岐阜市柳戸1-1)
1階 多目的ホール

**事前申込制
参加費無料**

**事前申し込み
9月30日(土)
締め切り**

岐阜大学医学部附属病院
ホームページ

医療機関の方へ

岐阜県難病
ネットワーク事業



<https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/official/nanbyo.html>

事前申し込みサイトから、
フォームに必要事項をご記入
の上、お申込みください。

ご記入いただいた個人情報は、
参加者属性調査と本シンポジ
ウムの連絡用以外は使用しま
せん。

定員(60名に達しましたら締
め切り(9月30日)前でも受付
を終了させていただくことがあ
ります。

プログラム ● 講演



新しい雇用の形！ 超短時間雇用とは

～働きたいと希望を持つ難病患者が、無理なく
働くことが可能な地域へ～



講師

東京大学先端科学技術研究センター

教授 近藤 武夫 先生

● パネルディスカッション

「難病患者の就労支援」治療と仕事の両立に必要なこと
コーディネーター:近藤武夫 教授

パネリスト:①難病の治療と療養、就労について

山田 恵(岐阜大学医学部附属病院 脳神経内科医師)

②岐阜市の超短時間雇用創出事業と難病事例
大原真須美(岐阜市超短時間ワーク応援センター 施設長)

③難病患者の就労支援について(連携事例)

岩田昌子(岐阜ハローワーク 難病患者就職サポーター)

野口史緒(岐阜大学病院 難病診療連携コーディネーター)

林 宏樹(おひさまの笑顔訪問看護ステーション 理学療法士)



難病医療ネットワーク病院の 関係者、難病の療養支援に関わる方、
就労支援に関わる方、行政(保健福祉、労働)の方、障害者雇用に
ご理解ある事業者の方など、ご参加をお待ちしています。

岐阜市における 超短時間雇用創出事業の取り組みについて

岐阜市では、多様な働き方を実現するためのワークダイバーシティの推進を目指しています。

その一つとして、長時間働くことが難しい人の社会参加及び自立を推進するため、週20時間未満の雇用である超短時間雇用に取り組んでいます。

超短時間雇用とは…

東京大学先端科学技術研究センター近藤武夫教授が提唱している新しい雇用の形です。

人手がほしい企業と、短時間で働きたい求職者（超短時間ワーカー）をマッチングし、両者にとってメリットのある雇用を創出する取り組みです。（※障害者雇用率の算定対象外）



- ・ 人手が欲しい
- ・ 残業が多くて困っている
- ・ いつかやりたいができていない業務がある



- ・ 短時間であれば仕事ができる
- ・ 特定の仕事に取り組みたい

「超短時間ワーク応援センター」が 以下のサポートを行います！！

企業へ 仕事の切り出しから雇用・職場継続

求職者へ 労働条件の整理・求人検討・職場見学や体験をサポート

岐阜市の雇用事例

建築設計事務所での仕事

仕事内容：データ入力

勤務日数：週1日、1日3時間



高齢者グループホームでの仕事

仕事内容：施設内の消毒作業

洗濯物たたみ

勤務日数：週2日、1日2時間



ビジネスホテルでの仕事

仕事内容：ホテル客室の

ベッドシーツはがし

勤務日数：週3～5日、1日3時間



＜お問い合わせ先＞

岐阜市超短時間ワーク応援センター

住所 岐阜市学園町2丁目3番地

(岐阜県障がい者総合就労支援センター内)

TEL 058-215-8280